

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

茨城県久慈郡大子町立だいご小学校 清水洋太郎

A-2

【活動名】教職員の資質・能力及び学校の組織力向上のための「教員組織所属意識尺度」活用による P D C A サイクルの確立

解決すべき課題：キーワード「資質・能力 / 組織力 / 客観的なエビデンス（根拠） / P D C A サイクルの確立」

- 1 （管理職による）児童生徒に「生きる力」を着実に育むための教職員の資質・能力及び学校の組織力の向上
- 2 （管理職による）客観的なエビデンス（根拠）に基づく教職員の資質・能力及び学校の組織力の向上のための P D C A サイクルの確立

目的や背景：キーワード「教員組織所属意識尺度の活用 / P D C A サイクルの確立」

- 1 目的：「教員組織所属意識尺度」の活用による P D C A サイクルの確立による職員の資質・能力及び学校の組織力の向上
- 2 背景：学校現場に山積する様々な課題に対応し、それらを解決するための「チーム学校」の確立。そのための、教職員の資質・能力及び学校の組織力向上の必要性とそのための方針の確立の必要性

活動内容：キーワード「自主・向上性 / 同僚・向上性 / 個別対応 / 全体対応」

- 1 P [計画立案]（平成 29 年 7 月）
 - 5 月：教員評価面談①（自己目標の設定）
 - 7 月：「教員組織所属意識尺度」第 1 回調査（教職員の「自主・向上性」「同僚・協働性」意識の把握 / 組織の状況の確認）
 - 8 月～ 10 月：改善のための取組
 - 10 月：教員評価面談②（進捗状況の確認～「教員組織所属意識尺度」第 1 回調査の教職員の意識確認）
 - 11 月～ 12 月：改善のための取組
 - 1 月：教員評価面談（達成状況の確認～「教員組織所属意識尺度」第 2 回調査の教職員の意識確認）
- 2 D [実践]（平成 29 年 7 月～ 10 月）

課題把握：「教員組織所属意識尺度」を活用し、職員の「自主・向上性」及び「同僚・協働性」に関わる意識をアセスメントした。

改善のための取組

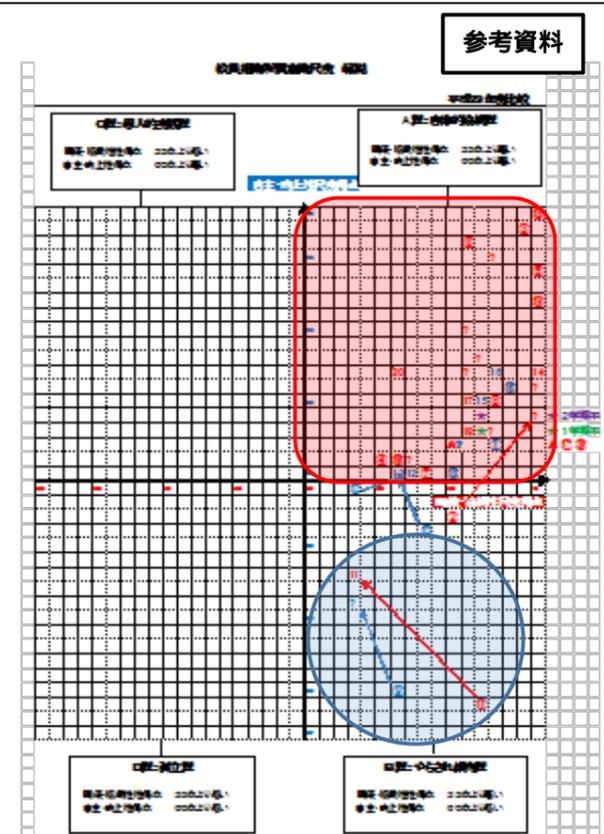
ア 個別対応～個人のプロット状況に応じて、「年代別の教職員の心理発達の理解と支援」をもとに、具体的な支援策を講じた。教員評価面談や日常の教育活動での声かけ、具体的な助言を通してそれを実践し、自己肯定感を高め、自分の実践に自信をもてるようにした。

イ 全体対応～職員全体のプロット状況に応じて、課題である項目に応じて改善策を講じた。自主研修に対する意識が低いことに対する改善策として、管理職の私書である教育関連図書を職員室に「研修文庫」として配架したり、積極的に出張を進めたり自主研修会を紹介したりした。
- 3 C [評価]（平成 29 年 12 月）～改善策を実践した後のアセスメント
 - 12 月：「教員組織所属意識尺度」第 2 回調査（教職員の「自主・向上性」「同僚・協働性」意識の変化の確認）
 - 1 月：教員評価面談③（達成状況の確認～「教員組織所属意識尺度」第 2 回調査の教職員の意識確認）
- 4 A [改善]（平成 30 年 1 月～）

今年度の取組による「教職員一人一人の資質・能力の向上」と「学校の組織力の向上」を確認し、次年度の学校教育目標の設定や教育課程の編成に活かす。さらに一人一人の資質・能力を活かし、同僚性を高め、学校力を一層向上させるために、P D C A サイクルも不断に見直す。

活動の成果：「教員組織所属意識尺度 / P D C A サイクルの工夫改善」

- 1 教員組織所属意識尺度による課題や改善策の明確化・共有化
「教職員一人一人の資質・能力の向上」と「学校の組織力の向上」に関わる課題が、データに基づき明確化され、その改善策を管理職と教職員で具体的に共有できるようになった。
「教員組織所属意識尺度」結果より（右図「参考資料」赤い部分）
A 群（自律的協働群）の所属率が、1 学期（73.6%）から 2 学期（89.4%）と、さらに高まった。1 学期の結果を共有し、授業公開とその後の協議を繰り返し行ったことなどの具体的な改善策により、課題であった「自主・向上性」も改善され、組織力も向上した。
教職員の感想より（右図「参考資料」青い部分）
1 学期に「自主・向上性」が低かった教員 2 名の意識も改善した。「今は企業でもやっていることなので、当たり前であり、これから必要なことだと思う。」「管理職にアンケートの結果を見られても、正直に記入し設問についてより深く意見交換をすることで、助言を受け入れ易くなり改善につなげることができると感じた。」という感想を聞くことができ、有効性を確認した。
- 2 課題や改善策の明確化・共有化のための P D C A サイクルの工夫改善
教員評価との連動
面談で「教員組織所属意識尺度」を基に話し合うことで、共通理解を図りやすくなった。
P D C A サイクルでの活用
1 年間の P D C A サイクルの中での「教員組織所属意識尺度」の活用法を明確にできた。



アピールポイント（アイデア）：

- 1 「教員組織所属意識尺度」を活用し、教職員の「自主・向上性」及び「同僚・協働性」を客観的にアセスメントして、それに基づく実践を行ったこと。
- 2 それを活用するためのデータベースを作成し、数値化により検証を容易にし、汎用性を高めたこと（利用については、出版社に確認済）。
- 3 計画的に教員評価と連動させ、面談等で数値等を活用する実践を行い、各校で活用できる P D C A サイクルを確立したこと。
- 4 結果として、約 4 か月で教員一人一人の意識が向上し自主性・協働性が高まり、学校組織の状態も自律的協働群が増え、改善が見られたこと。

「教職員の資質・能力及び学校の組織力向上のための「教員組織所属意識尺度」活用による
P D C Aサイクルの確立」に関わる個別ヒヤリング結果
平成 29 年 12 月 20 日

A 教諭（教務主任：男性 4 4 歳，教職歴 2 1 年）

1 尺度の変化

- ① 同僚・協働性尺度：6 2（8 月）→6 3（1 2 月）
- ② 自主・向上性尺度：4 5（8 月）→5 1（1 2 月）

2 回答の変化（特に改善が見られた項目）

- ① 自主・向上性尺度 設問 8：3（8 月）→4（1 2 月）

【学校行事の参加には，行事の目的に沿い自分の学級の実態に応じた目標を定めて取り組んでいる。】

↓（理由と感想等）

★「目標やねらいを意識するようになった。1 学期やってみて，各行事の思いや願いに気づけるようになった。」

★「（自分の前職である）生涯学習センターの各事業に取り組めた。先生方に，『こういう方法がある』『こういうよさに気づいてもらいたい』という思いを実現できた。」

★「（6 年生の総合的な学習の時間の）授業研究会の関わったことで，担任の思いを汲み取りながらアイデアを出し合った経験が印象に残っている。」

- ② 自主・向上性尺度 設問 1 3：1（8 月）→2（1 2 月）

【校内研修で取り組んだ内容は，自分なりに本を読んだり関連する校外研修に参加したりするなどしている。】

↓（理由と感想等）

★「こなしているだけだが，少しずつ意味やねらいに目が向くようになった。」

3 「教員組織所属意識尺度」を実施することについて

- 特に抵抗はない。今は企業でもやっていることなので，当たり前であり，これから必要なことだと思う。
- （他の職員からの批判はないか？）特に，聞いてはいない。

B 教諭（研究主任：女性 3 7 歳，教職歴 1 1 年）

1 尺度の変化

- ① 同僚・協働性尺度：6 7（8 月）→5 8（1 2 月）
- ② 自主・向上性尺度：4 4（8 月）→5 3（1 2 月）

2 回答の変化（特に改善が見られた項目）

- ① 自主・向上性尺度 設問 3：1（8 月）→2（1 2 月）

【授業の実践力を向上するために本を買ったり他の研究校の資料を取り寄せたりしている。】

↓（理由と感想等）

★「仕事についてのやらされ感はない。」

★「配られた本や資料はコピーすることを意識した。研究主任として『研究通信』を書くために本を読む必要も感じた。新聞は読むようにしている。」

★「若手が入ってきて，I C T など新しい物も入ってきている。新しいことに対応するために，研修をする必要性を感じている。」

- ② 自主・向上性尺度 設問 1 0：1（8 月）→4（1 2 月）

【校務分掌の仕事は，例年の内容をより効果的・促進的になるように取り組んでいる。】

↓（理由と感想等）

★「研究テーマは国語だが，外国語科の研修に力が入った。代理で外国語の研修に出してもらったこともよかった。」

- ③ 自主・向上性尺度 設問 1 6：1（8 月）→1（1 2 月）

【授業を同僚に参観してもらい，修正点を指摘してもらうなど向上に努めている。】

↓（理由と感想等）

★「校内研修で，授業を見てもらい協議はしたが，それは決まりになっているからであって，まだ自分で求めている訳ではないので。」

3 「教員組織所属意識尺度」を実施することについて

- 調査やアンケートについて，無感覚になっている部分はある。
- 結果について，全体や個別で話をしても，「そんな感じか」という程度で済ませてしまうところもある。
- 管理職に（アンケートの結果を）見られても，正直に書いて設問ごとに突っ込んで話をすることで，助言を受け入れやすくなり改善につなげることができると感じた。